

兵庫県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要

別紙参照

(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

(1) 高等学校における現状と課題

「求められる英語力を有する生徒の割合」が 51.6%、「求められる英語力を有する英語教員の割合」が 88.1%と、ともに文部科学省目標を到達している。しかしながら、CAN-DO リストの効果的な活用については、リストの公表の割合が着実に増加しているものの、県の目標の 100%は達成できなかった。課題であった達成度の把握状況については、50.3%と県の目標を達成したが、学習指導と学習評価の PDCA サイクルを有効に機能させるためには、CAN-DO リストの活用が不可欠であることから、さらにリストの効果的な活用を促進していく。加えて、生徒の言語活動についても、引き続き充実させていく必要がある。これらの状況を踏まえ、引き続き、次の 3 点 (①生徒の意欲を高める授業づくり、② 4 技能を総合的に育成する取組、③教員の英語力・指導力の向上) について重点的に取り組み、更なる英語教育の推進を目指す。

【R 元年度主な目標達成状況】

指 標	H30 (実績)	R1 (目標)	R1 (実績)	指 標	H30 (実績)	R1 (目標)	R1 (実績)
CEFR A2 レベル相当以上生徒の割合	48.5%	50.0%	51.6%	CEFR B2 レベル相当以上教員の割合	77.6%	90.0%	88.1%
生徒の言語活動授業の半分以上	90.2%	100.0%	87.6%	教員の英語発話授業の半分以上	86.9%	100.0%	86.4%

※調査対象となる授業は「コミュニケーション英語 I」

【R2 年度改善方策及び目標】

重点取組項目	改善方策	目標となる指標
① 生徒の意欲を高める授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○ALT (132 人) を全校配置 ・チーム・ティーチングによる授業の充実 ・英語以外の授業での活用の推進 ・海外の高校との共同研究の実施 ○学習到達目標を生かした授業 ・兵庫版基本 CAN-DO リストの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○求められる英語力を有する生徒 R2 50.0% (現状: R1 51.6%) ○生徒の英語による言語活動時間 R2 100.0% (現状: R1 87.6%)
② 4 技能を総合的に育成する取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各校毎の CAN-DO リストの改善・公表・達成状況の把握等、効果的な活用 ○グローバル・リーダー育成事業の実施 ・国内で 2 泊 3 日の英語合宿 ・高校生 50 人、ALT20 人 ○国際交流事業 ・姉妹州省との相互交流の実施 ○各種コンテストの実施 ・スピーチ、エッセイ、ディベートコンテストの実施 (高英研と連携) 	<ul style="list-style-type: none"> ○パフォーマンステストの実施(1 科目平均) ・スピーキング R2 3.0 回 (R1 1.3 回) ・ライティング R2 2.0 回 (R1 1.8 回) ○イングリッシュ・キャンプの実施 R2 27 校 (現状: R1 27 校) ○海外の高校との協働学習の実施 R2 35 校 (現状: R1 32 校) ○CAN-DO リストを公表している学校 R2 100.0% (現状: R1 78.4%) ○CAN-DO リストの達成状況を把握している学校 R2 55.0% (現状: R1 50.3%)

③教員の英語力、指導力の向上	○教員の海外派遣 ○全ての英語担当教員対象の外部専門機関を活用した研修の実施 ○日本人教員を交えたALT研修等の実施	○教員の英語力の向上 R2 90.0% (現状：R1 88.1%) ○教員の英語使用率の向上 R2 100.0%(現状：R1 86.4%)
----------------	--	--

(2) 中学校における現状と課題

令和元年度の「求められる英語力を有する英語教員及び生徒の割合」は、平成30年度と比較すると若干減少し、依然として文部科学省目標に近づいていない。また、「授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合(50%以上の割合)」及び「英語担当教員の授業における英語使用状況(50%以上の割合)」についても、全国平均を約7~10%下回っており、言語活動の実施に課題が見られ、言語活動を中心とした授業への改善を促す必要がある。

【令和元年度主な目標達成状況】

指 標	H30 (実績)	R1 (目標)	R1 (実績)	指 標	H30 (実績)	R1 (目標)	R1 (実績)
CEFR A1 以上 生徒の割合	40.8%	42.0%	40.2%	CEFR B2 以上 教員の割合	34.3%	35.0%	35.6%
生徒の言語活動 授業の50%以上	66.6%	70.0%	69.0%	教員の英語発話 授業の50%以上	64.1%	75.0%	69.2%

【R2年度改善方策及び目標】

これらの状況を踏まえ、次の2点(①教員の指導力向上、②教員の英語力の向上)について重点的に取り組み、更なる英語教育の推進を目指す。

①教員の指導力向上について

ア 改善方策

- 指導者養成研修の実施
- 英語科の授業改善少人数グループ実践研修の実施
 - ・英語調査等を踏まえた授業改善ポイントの整理
 - ・即興的なコミュニケーションを図る力を育むための言語活動の充実
 - ・授業実践の共有

イ 目標となる指標

項目	現状	R2	R3	R4
求められる英語力を有する生徒	40.2%	45.0%	47.0%	50.0%
生徒の英語による言語活動時間 (50%以上の割合)	69.0%	80.0%	90.0%	100%

②教員の英語力の向上について

ア 改善方策

- 英語科の授業改善少人数グループ実践研修の実施 (R1~R3)
 - ・授業を英語で行う等、教員の英語使用率を高める
- 日本人教員を交えたALT研修等の実施
- 外部検定割引制度の活用等についての周知

イ 目標となる指標

項目	現状	R2	R3	R4
教員の英語力の向上	35.6%	40.0%	45.0%	50.0%
教員の英語使用率の向上 (50%以上の割合)	69.2%	80.0%	90.0%	100%

(3) 小学校における令和元年度の現状と課題

6 研修協力校を指定し、効果的な指導方法等をテーマに、各地域の小・中学校教員を対象に公開授業や研究協議会の実施や、個々のスキルアップに対応できるよう、昨年度各小学校に配布した「外国語教育指導用映像資料」の活用を推進し、教員の指導力向上を図ってきた。しかし、依然として、約 65% (約 1,500 人) の学級担任が 5・6 年生の外国語活動を担当している現状からも、引き続き、教員の指導力向上に向けた支援が求められる。

【R2 年度改善方策】

今後も、新たな地域で研修協力校を指定し、効果的な指導方法及びパフォーマンス評価の在り方についての研究成果を広めていくとともに「外国語教育指導用映像資料」等を活用し、教員の指導力の向上及び小学校外国語教育の充実を図る。

①教員の指導力向上について

【改善方策】

○研修協力校による効果的な指導方法の研究・成果の普及

- ・新学習指導要領に基づく指導方法の工夫
- ・学びの接続を意識した小・中連携
- ・「小学校外国語教育指導用映像資料」を活用した効果的な研修
- ・パフォーマンス評価の在り方

○外部連携研修受講者を講師とした研修の実施

②教員の英語力の向上について

【改善方策】

○研修協力校による教員の英語力向上に向けた研修の実施

- ・外部検定試験受験に向けた研修
- ・英語力向上に向けた研修方法等の普及

(4) より質の高い英語教育を推進する小学校教員の新規採用に係る取組について

本県では、公立学校教員候補者選考試験（小学校・特別支援学校区分）において、より質の高い英語教育を推進するため、平成 26 年度実施から、一定の英語資格所有者への配慮措置を導入し、その後、平成 28 年度実施からは加点措置とした。また、平成 30 年度実施からは中学校または高等学校「英語」の免許を所有する者への加点措置（H30～）を新設し、小学校英語教育の充実に向けた教員の採用を促進している。

今後の一定の英語力を有する小学校教員を採用するため、選考試験を工夫し、計画的に人材の確保に取り組む。

	R2 実績	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)
一定の英語力を有する 新規採用者の割合	4%	10%	20%	30%	40%	50%

※新規採用教員数に対する一定の英語力を有する者の割合（予定）

(3) 研修の体系と内容の具体

1 実施研修

(1) 研修協力校による公開授業等の実施

① 趣 旨

英語教育推進リーダー等を中心とし、各地域の小・中学校教員を対象に公開授業や研究協議会を実施することにより、県内全域に研修成果の普及を図る。

② 研修協力校

県内4小学校

③ 対象者

研修協力校(4校)のある各地域の小・中学校外国語及び英語担当教員
1校 1回あたり 40名程度

④ 実施回数

8回程度(1校 年間2回程度)

⑤ 主な実施内容

- ・公開授業、研究授業
- ・言語活動を中心とした効果的な指導方法の研修会
- ・「小学校外国語教育指導用映像資料」を活用した効果的な校内研修の在り方について
- ・パフォーマンス評価の在り方について
- ・教員の英語力向上に向けた研修の在り方について

(2) 中央研修修了者による研修会の実施

ア 指導者養成研修(英語教育推進リーダー連絡協議会)

① 対象者

英語教育推進リーダー

② 実施回数

1回

③ 主な実施内容

少人数グループ研修の実施に向け、全国学力・学習状況調査(英語調査)の問題分析及び新学習指導要領を踏まえた授業改善のポイントについて協議し、少人数グループ研修用資料を作成する。

イ 少人数グループ研修

① 対象者

中学校英語科教員

② 実施回数

16グループ(1グループ20人)×2回(3年計画)

③ 主な実施内容

- 1回目:新学習指導要領や全国学力・学習状況調査(英語調査)から、英語科における授業改善のポイントを整理し、それを踏まえた実践研修
2回目:授業実践に関する協議(模擬授業)

(3) 外部専門機関の活用

外部専門機関を活用した英語教員研修

① 趣 旨

英語4技能の総合的な育成のための指導力を向上させるため、県立高等学校の全ての英語教員を対象として、外部専門機関を活用した研修を実施する。

② 対象者

県立高等学校及び中等教育学校(後期課程)で英語を担当する全ての主幹教諭・教

論及び任用期間を付さない常勤講師

③ 実施内容

- ・スピーキング、ライティングの指導や評価についての講義・演習
- ・新しい出題傾向に対応した指導法についての協議
- ・学校でのパフォーマンステストの実施と評価の在り方についての協議

(4) 外国語指導助手を対象とした研修の実施

① 趣旨

小・中・高等学校等において語学指導等に従事する外国語指導助手（ALT）に対し、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等を習得させるとともに、外国語教育に係る諸問題について研究協議を行い、もって外国語教育の充実に資する。

② 対象者

- ・「兵庫オリエンテーション」 新規来日 ALT
- ・「外国語指導助手の指導力等向上研修」 ALT 約 200 名、日本人英語教員 約 200 名

③ 実施回数

- ・「兵庫オリエンテーション」 2 日間
- ・「外国語指導助手の指導力等向上研修」 2 日間

④ 主な実施内容

- ・効果的なティーム・ティーチングの在り方と実践について
- ・小学校・中学校・高等学校等における外国語教育をめぐる諸問題について

2 各研修の評価

(1) 研修会等への参加人数

上記（1）～（3）の各研修受講者の目標数を設定する。

① 英語教育改善プラン推進事業

研修協力校（4校）が実施する公開授業、域内研修会等に参加した教員数

- ・小学校外国語担当教員 240 名（県内 4 研修協力校×30 名×2 回）
- ・中学校英語担当教員 80 名（県内 4 研修協力校×10 名×2 回）

② 中央研修修了者による研修会の実施

ア 英語教育推進リーダー連絡協議会

- ・英語教育推進リーダー 26 名（平成 26 年～平成 30 年の中央研修修了者）

イ 少人数グループ研修

- ・中学校英語担当教員 約 900 名（年間 300 名×3 年間）

③ 外部専門機関を活用した英語教員研修の実施

県立高等学校及び中等教育学校（後期課程）で英語を担当する全ての主幹教諭・教諭及び任用期間を付さない常勤講師 400 名

(2) 授業改善の状況の把握及び検証

国が実施する「英語教育実施状況調査」を活用し、研修受講者勤務校における英語授業の改善状況を検証する。

(4) 年間事業計画

月	小・中学校		高等学校	
	兵庫県の取組	外部専門機関等	兵庫県の取組	外部専門機関等
4月				
5月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会①	県内の大学		
6月	英語教育推進リーダー連絡協議会	県内の大学		
7月			グローバルリーダー育成事業（2泊3日）	
8月	少人数G研修①		外部専門機関活用研修（5日）	英語教育関連企業
9月	研修協力校による公開授業①	県内の大学		
10月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会②	県内の大学	新規来日 ALT 対象研修会（1日） 兵庫県高校生エッセイコンテスト	
11月	少人数G研修②		外国語指導助手の指導力等向上研修（2日） 兵庫県高校生スピーチコンテスト	
12月	研修協力校による公開授業②	県内の大学		
1月				
2月	英語教育改善プラン推進事業連絡協議会③	県内の大学	兵庫県高校生ディベートコンテスト	
3月				

